

第2班「大都市圏郊外の建造環境の変化とリノベーション——：『オールドタウン』化に抗う多摩ニュータウンの取組み——」

趣旨

多摩ニュータウン事業は、高度経済成長による住宅難への対応と、それに伴う急速なスプロールの防止を目的として、良好な住宅市街地の形成を目指して行われてきた。その後、時代の要請に応じて、業務施設を誘導し、今日では多機能複合都市に発展している。しかし現在、初期入居地区では、団地の老朽化、住民の高齢化、近隣センターの活力低下などの課題が顕在化し、再生が必要となっている。同時に、公共施設や公園等の改修が進められ、商業施設の再編成も緩やかに進行している。

こうした状況について、1) 人口規模と空間的な広がり、2) 空き家やフード・デザートなど「縮退」に直面する地区や業務機能の新たな集積との対比、3) 就業や就学の場と生活活動の変化との関係、4) ジェンダーをはじめとする社会関係や世帯の変容、5) 主婦層、定年退職を迎えた団塊世代、学生など多様な主体による再編の取組みなどの視点から現地での視察を行いたい。

本エクスカーションでは、現在大規模なリノベーションの過程にある、1970~1980年代にかけて開発された多摩センターから永山にかけての地区をみて回る。具体的には、商業施設の移り変わり、公園、公共施設のような公共空間の改修、少子化にともなって廃校となった小中学校校地の再利用、集合住宅の建て替えの現場を視察し、ニュータウンの建造環境の変化を考える。

集合

3月27日（月）9時 京王多摩センター駅南口

解散

3月27日（月）17時 京王永山駅（小田急永山駅も利用可能）

コース

京王多摩センター駅（集合）ーパルテノン大通り（駅周辺商業施設）ー公園・住宅地・近隣センターの現況ーパルテノン多摩（改修された公共施設、学芸員による説明）ー民間マンション開発地域ー長谷工マンションミュージアム見学ー京王永山へ電車移動ー旧西永山中学校跡地利用（福祉施設等）等ーUR 団地リノベーション（MUJI×永山団地）、諏訪団地建替えー京王永山駅（解散）

そのほかにも商業施設跡地でのコミュニティ再生計画などの視察を検討しており、一部の行程が変更になることがあります。ご了承ください。

案内者

中川秀一（明治大）、箸本健二（早稲田大）、三橋浩志（文科省）、荒又美陽（明治大）

募集人員

20 名

参加費（変更しましたのでご注意ください）

2000 円（資料代、保険代等を含む。ただし、電車料金、施設入館料は含みません。念のため 1000 円ほどご準備ください）

そのほか

歩きやすい服装でご参加ください。

申し込み締め切り

3 月 11 日（土）

参加申し込み

shul@meiji.ac.jp までメールでお申し込みください。ご氏名、ご所属、会員／非会員、携帯電話・e-mail などの確実に連絡ができるご連絡先を合わせてお知らせ下さい。経済地理学会員の場合は、その旨記載して下さい。

備考

経済地理学会と共催します。2023 年 5 月 26 日（金）～5 月 28 日（日）に専修大学神田キャンパスで開催される第 70 回経済地理学会大会のプレ企画エクスカージョンを兼ねています。経済地理学会 2023 年度大会「大都市圏郊外の再編」については、こちらの URL をご参照ください。

<https://www.economicgeography.jp/meeting/meeting2023vol1/>